

2024年度

事業報告書

公益財団法人 NHK交響楽団

— 目次 —

はじめに	3
1. N響ならではの公演と入場者の増加	4
(1) 定期公演の充実と改革	4
(2) 多様な公演の展開	7
<特別公演>	7
<地方公演>	8
<契約公演>	8
<海外公演>	9
2. 若い世代を中心にファンを拡大	9
(1) 若年層への浸透	9
(2) デジタルの活用	9
(3) 子どもたちに文化を継承	10
(4) N響100年に向けた取り組み	11
3. 社会と放送への貢献	11
(1) 次世代の未来を育む活動	11
(2) 福祉、被災地を応援する活動	11
(3) 放送等への貢献	12
(4) N響アカデミーによる人材育成	12
4. 海外のファンの獲得	13
(1) アジアを中心にファンを獲得	13
(2) 訪日旅行者、留学生に向けた取り組み	13
(3) 国際発信の強化	13
5. 経営の安定化とマネジメントの強化	14
(1) 経費の節減	14
(2) 増収の努力	14
(3) マネジメントの強化	15
6. 顕彰の実施	15
(1) 尾高賞	15
(2) 有馬賞	15
7. 法人の概況	16
8. 処務の概況	17
9. 理事および監事に支払った報酬の額	19
(参考資料)	20

はじめに

NHK交響楽団にとって2024年度は、コロナ禍からの完全復活とピンチをチャンスに変えた努力の結実を強く印象付ける年だった。就任して3シーズン目の首席指揮者ファビオ・ルイージをはじめ、ヘルベルト・ブロムシュテットやトゥガン・ソヒエフら内外の巨匠たちとの巧みなプログラムは、人々に深い感動と興奮を与えた。総入場者数は9年ぶりに12万人を超え、とりわけBプログラムは2年連続で全ての公演が完売した。

若いファンも着実に増えた。若者向けの半額以下の割引サービス「ユースチケット」は年齢の上限を29歳まで大幅に拡大。ユース登録者数は前年度の倍に増え、定期会員の増にもつなげた。SNS広報やゲームの「ドラゴンクエスト」といった初心者でも目を惹く斬新なプログラムも奏功し、定期会員の総数は、年間平均で8,262人とコロナ前を上回った。

収益の向上の一方で、室内楽による学校や福祉施設の訪問、能登半島地震などの被災地での活動にも力を入れた。社会と地域に貢献し、音楽文化を次世代に継承するN響のもう一つの役割を發揮できた。

N響の評価は海外でも高まっている。8月の台湾公演は、台北での2公演が満席となるなどいずれも盛況で、現地メディアもアジアを代表するオーケストラとして評価した。2025年5月には、オランダでの世界的な音楽祭「マーラー・フェスティバル」に、ベルリン・フィルなどのトップオーケストラとともに招かれている。これにあわせて5か国6都市を回るヨーロッパツアーを行い、日本の芸術文化の発信とプレゼンスの向上に貢献する。

2024-26年度中期3か年計画の初年度は、ほぼ計画通りのスタートを切ることができた。2026年の創立100年に向けて“世界のN響”としての歩みをさらに進めていく。

1. N響ならではの公演と入場者の増加

(1) 定期公演の充実と改革

- ① 世界の第一線で活躍する指揮者、ソリストとの共演
N響の顔として定着した首席指揮者として3シーズン目を迎えたファビオ・ルイー
ジ、現役最高齢である97歳の桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット、次世
代の巨匠と目されるトゥガン・ソヒエフに加え、アンドレアス・オロスコ・エスト
ラーダやペトル・ポペルカなど気鋭の指揮者との初共演を実現。ソリストでは、
世界的奏者のラインホルト・フリードリヒ（トランペット）やラデク・バボラーク
（ホルン）、ショパン国際ピアノ・コンクールで名を馳せた反田恭平などを招き、
日本最高水準の演奏をお届けした。
- ② プログラムと開催日の見直し
9月に始まった2024-25シーズンから、A、B、Cの3プログラムのうち、NHK
ホールで金曜、土曜に開催していたCプログラムの公演時間を「A・Bプログラム
と同様に長めの曲をたっぷり味わいたい」とのお客様の声に応じて拡充。“休憩あ
り2時間”という従前のスタイルに戻した。また、サントリーホールでのBプログ
ラムの開催日をこれまでの水曜（1日目）、木曜（2日目）から木曜（1日目）、金
曜（2日目）へと変更。こうした取り組みが定期会員数の増加、特に若い世代の聴
衆を増やすことにつながった。
- ③ 3プログラムの特色づけ
2024-25シーズンは、重厚で長大な本格的作品を存分に味わっていただくAプログ
ラム、サントリーホールでの豊かな響きと繊細な音作りを楽しんでいただくBプロ
グラム、新しい2時間のフル・プログラムで交響曲や舞台音楽の名曲をお送りする
Cプログラムなど、3プログラムの特色をより明快に打ち出した。
- ④ お客様へのサービス
7月公演分より、若者向けの割引サービス「ユースチケット」の対象を「25歳以
下」から「29歳以下」に拡大したところ、会員数が大幅に増加した。またコロナ
禍以降、営業を休止していたNHKホールのカフェコーナーについては、NHK
など関係各所と連携し2025年1月から新たな事業者により営業を再開するた
めのトライアルを行うなど、来場者に対するホスピタリティの充実にも努めた。
- ⑤ WEBアンケート
公演プログラムに掲載したQRを活用したお客様のWEBアンケートを定期公演、
特別公演、地方公演で実施した。寄せられた来場者からの意見は今後の公演内容や
広報・運營業務に反映していく。

【定期公演】

○ 2023—24定期公演（4月～6月）

Aプログラム：NHKホールで3プログラム6公演

Bプログラム：サントリーホールで3プログラム6公演

Cプログラム：NHKホールで3プログラム6公演

合計9プログラム、18公演

○ 2024—25定期公演（9月～翌年2月）

Aプログラム：NHKホールで6プログラム12公演

Bプログラム：サントリーホールで6プログラム12公演

Cプログラム：NHKホールで6プログラム12公演

合計18プログラム、36公演

<4月>

ドイツ音楽の名匠2人が登場。Aプログラムはマレク・ヤノフスキのシューベルトとブラームス。CプログラムとBプログラムではクリストフ・エッシェンバッハのブルックナーとシューマン。どちらも19世紀の傑作交響曲を指揮した。

<5月>

首席指揮者のファビオ・ルイーダがバラエティに富んだ3つのプログラムを指揮。Aプログラムはイタリア現代の作曲家パンフィリとレスピーギのローマ三部作。Bプログラムは大御所ブフビンダーがソロを務めるブラームス《ピアノ協奏曲第1番》とニルセン。Cプログラムはルイーダ得意のメンデルスゾーンを取り上げた。

<6月>

日本の若手指揮者3人が、20世紀の扉を開いた重要な作曲家に焦点を当てた。Aプログラムの原田慶太楼は盟友・反田恭平をソロに迎えてのスクリャービン。Bプログラムの鈴木優人はバロックと現代を組み合わせた。Cプログラムの沖澤のどかはドビュッシーをはじめとするフランス音楽を好演した。

<9月>

ファビオ・ルイーダが首席指揮者として3シーズン目を迎えた。シーズン幕開けのAプログラムでは、満を持してブルックナーの大曲《交響曲第8番》を披露。Bプログラムでは同じイタリア出身のアレッサンドロ・タヴェルナとともにシューマン《ピアノ協奏曲》を演奏。正指揮者・尾高忠明は、かつて英国プロムスで大好評を博した《白鳥の湖》を指揮した。

<10月>

97歳の桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットが元気に来日し、3つのプログラムを指揮。Aプログラムはウィーン・フィルとも演奏して話題となったオネゲルとブラームスの組み合わせ。Bプログラムはライフワークでもある北欧のレパートリー。Cプログラムではシューベルトのポピュラーな交響曲2曲を披露した。

<11月>

Aプログラムは世界的な注目を集める山田和樹によるフランス近現代音楽。Bプログラムのディマ・スロボデニュークとCプログラムのオロスコ・エストラーダは、N響定期初登場。ともにロシア音楽を中心とする得意レパートリーを並べた。

<12月>

首席指揮者ファビオ・ルイーダがAプログラムで、生誕150年のシェーンベルク《ペレアスとメリザンド》を取り上げた。Bプログラムでは名曲《展覧会の絵》に初挑戦。Cプログラムでは最近ダラス交響楽団との演奏が好評を博したリスト《ファウスト交響曲》。昨年の《一千人の交響曲》に続き、ゲーテを原作とするシリーズの第2弾であった。

2025年

<1月>

近年ますます評価を高めているトゥガン・ソヒエフが3プログラムを指揮。Aプログラムは、彼が深い思い入れを持つショスタコーヴィチ《交響曲第7番》。Bプログラムでは、第1コンサートマスターの郷古廉がバルトーク《ヴァイオリン協奏曲第2番》にソリストとして挑んだ。Cプログラムはおなじみの名曲、ブラームス《交響曲第1番》を届けた。

<2月>

プラハ放送響の首席指揮者ペトル・ポペルカが登場。Aプログラムは、祖国を代表する作曲家ドヴォルザークとヤナーチェクを中心とした意欲的な選曲、Bプログラムはオーソドックスなドイツ音楽で、初登場ながら熱演でファンの心をつかんだ。Cプログラムは正指揮者・下野竜也が誘うフランス・オペレッタの世界。

■定期公演入場者と定期会員（席）数■（2025年3月末現在）

2024年度の定期公演は、計画通り54公演を開催した。総入場者数は前年度を2万人以上上回る120,980人に達し、実に9年ぶりに12万人を超えた。このうち、Bプログラムは昨年度に続きすべてのチケットが完売した。定期会員（席）数は年間会員、シーズン会員合わせて年間平均で8,262人と、前年度（8,112人）よりも150人増加した。

(2) 多様な公演の展開

定期公演以外にも、音楽文化の創造、発展に寄与し、地方都市での公演を通じて良質な音楽を全国の隅々まで届けるために、多彩なコンサートを行った。また、幅広い世代にクラシック音楽に親んでもらうための公演にも力を入れた。さらにコロナ禍で中断していた海外公演を4年ぶりに再開し、台湾の3都市で4公演を実施。芸術を通して国際交流に貢献した。

<特別公演>

① N響 ドラゴンクエスト・コンサート

人気ゲームソフト「ドラゴンクエスト」の音楽を最初に録音したN響による特別公演。正指揮者の下野竜也のタクトのもと、クラシックの名曲も交えながら、ファンの期待に応える熱演を披露した。

(5月6日 東京芸術劇場)

② Music Tomorrow 2024

優れた現代音楽作品を取り上げて、新たな音楽文化の創造に寄与することを目的とした演奏会。2024年に亡くなったペーテル・エトヴェシュの新作を軸に、尾高賞受賞作と、N響が共同委嘱に加わったミュライユ「嵐の目」の日本初演を行った。指揮はエトヴェシュの弟子で現代曲を得意とするペーター・ルンデル。

(5月28日 東京オペラシティ・コンサートホール)

③ N響「夏」2024

クラシック音楽のファン層拡大を目的に、シベリウス《ヴァイオリン協奏曲》、ベートーヴェン《交響曲第6番「田園」》といった、おなじみの名曲を届けた。

(7月12日 NHKホール)

④ 松山定期演奏会

愛媛県内の多くの企業に協賛いただき、県民に好評の演奏会を今年度も開催した。出演者・プログラムは③に準じる。

(7月14日 愛媛県県民文化会館)

⑤ N響ほっとコンサート

夏休みにファミリー向けに行う演奏会。今年度はエストニアの女性指揮者クリスティーナ・ポスカを迎え、厚切りジェイソンをナビゲーターに、世界音楽の旅をテーマにした、会場も巻き込んだ楽しいコンサートを行った。

(7月27日 NHKホール)

⑥ N響ウェルカム・コンサート

2024-25シーズン・プログラムの聴きどころを、下野竜也の指揮でわかりやすく紹介した。多くの入場者を集め、従来の定期会員はもちろん、新たなファンにも興

味を持ってもらうという目標を達成した。

(9月5日 NHKホール)

⑦ N響名曲コンサート2024

フランスの名指揮者パスカル・ロフェを迎えて、没後100年のフォーレ《「ペレアスとメリザンド」組曲》や、ドビュッシー《交響詩「海」》など、クラシックの名曲を楽しんでもらうコンサートとして実施した。ソリストには期待の若手ピアニスト、ジョナタン・フルネルを迎えた。

(9月9日 サントリーホール)

⑧ ベートーヴェン「第九」演奏会

年末恒例のベートーヴェン《交響曲第9番》。

今回は首席指揮者のファビオ・ルイーゼが指揮台に立ち、海外の豪華歌手陣を迎えて実施した。また、例年よりも1公演多く行い、多くの方に演奏を届けた。

(12月18, 19, 21, 22日 NHKホール)

(12月23日 サントリーホール)

⑨ N響大河ドラマ&名曲コンサート

長年、NHK大河ドラマのテーマ曲演奏を手掛けてきた“N響ならではの”のコンサート。往年の名作から最新作まで、おなじみのテーマ音楽を次々に紹介した。指揮は熱烈な大河ドラマファンの広上淳一。ソリストには「真田丸」のテーマを演奏したヴァイオリニスト、三浦文彰を迎えた。早々にチケットが完売し、会場でも好意的な反響が相次いだ。

(2025年3月7日 東京オペラシティ)

<地方公演>

① NHK各放送局との共催により全国各地で実施する公演

2024年度は大阪、甲府、西宮、大津、高知、高松の合計6都市で実施した。

② NHK音楽祭

名誉音楽監督のシャルル・デュトワを7年ぶりに迎え、彼が最も得意とする曲の一つ、ストラヴィンスキー《春の祭典》などを披露した。

(10月30日 NHKホール)

<契約公演>

主催者の依頼により出演する公演。「東京・春・音楽祭」や「N響オーチャード定期」のように首都圏で行うものや、全国各地の自治体等から依頼を受けて行うものなど、全国各地から熱心な要望を受け、合計37公演を実施した。

<海外公演>

2020年のヨーロッパ公演以降、途絶えていた海外公演を再開。台湾の台北、台中、高雄の3会場で4公演を行った。首席指揮者ファビオ・ルイージとの初の海外ツアーであり、地元出身の気鋭のヴァイオリニスト、ポール・ホアンをソリストに起用。チャイコフスキー「交響曲第5番」などの名曲で地元ファンの期待に応えるとともに、N響の実力を国際的にアピールした。

(8月22、25日 台北・国家音楽庁)

(8月23日 台中・国家歌劇院)

(8月24日 高雄・衛武宮国家芸術文化センター)

2. 若い世代を中心にファンを拡大

(1) 若年層への浸透

① 初心者でも楽しめるスペシャルコンサート

9月に開幕する定期公演の新シーズンのラインナップをダイジェストで紹介する「N響ウェルカム・コンサート」を前年度に引き続き開催した。クラシック音楽の初心者にも来場してもらいやすいよう、ウェルカム・ペアチケット(2枚1組)2,000円や若者向けのユースチケット500円という破格な特別料金を設定した。また会場内では定期公演チケットの特設販売を行ったり、抽選で定期公演にご招待するアンケートの企画を実施するなど、新シーズンの来場者増につなげた。

「N響ほっとコンサート」は、夏休みに親子で楽しめるファミリー向けの公演として実施。ロビーでの楽器体験コーナーのほか、「ポケモン」との連携による来場者サービスも実施し、家族連れを中心に好評を博した。

このほか、「N響 ドラゴンクエスト・コンサート」や「N響大河ドラマ&名曲コンサート」など、ゲームや番組とコラボした親しみやすい公演も開催し、いずれも早期にチケットが完売するなど大きな反響を呼んだ。

② ユースチケットの対象年齢拡大

全券種で半額以下の割引となる若者向けの「ユースチケット」の対象年齢を7月にこれまでの“25歳以下”から“29歳以下”に拡大した。20代後半の社会人にも買い求めやすくなったことでユース登録者数、購入者数ともに大きく増加した。2025年3月末現在の登録者数は16,000人を超え、1年間で8,000人以上増加した。

(2) デジタルの活用

① N響公式YouTubeチャンネル

デジタルツールは幅広い世代に定着し、とりわけYouTubeは若年層にアピールするための必須の手段となっている。N響公式YouTubeチャンネルでは、世界最高峰の音楽家から新進気鋭の若手まで様々なアーティストとの演奏や、メッセージ、インタビューなどの動画をアップしている。今年度の新作本数は60本に上り、2025年3

月末現在、チャンネル登録者数は103,000人と、1年間で26,000人増えた。海外からの視聴は総再生回数の7.5%を占め、国の内外への発信窓口となっている。また2025年1月からは新入団員のメッセージ動画の掲載を始めるなど、新しいコンテンツの開発にも取り組んだ。引き続きN響ならではの魅力的なコンテンツを発信し、若者や忙しい現役世代が公演に足を運ぶきっかけにしよう。

② 主催公演の有料動画配信

5月に開催した「N響 ドラゴンクエスト・コンサート」では、チケット販売開始の2週間後にはほぼ完売する状況だったことから、更なるファンサービス向上を目的に、N響が主催する公演としては初めて、有料のストリーミング配信をリアルタイム、アーカイブの双方で実施した。視聴者数は会場への来場者数に匹敵し、SNS上では配信視聴者からも多くの投稿が寄せられるなど、大きな反響を呼んだ。

③ 多様なSNSの活用

X(旧Twitter)、Facebook、Instagramは、YouTubeと並び、コンサートの反響や公演予定の変更などを迅速に周知する有力な速報ツールとなっている。ストーリーズ機能を積極的に取り入れるなど、SNSを使いこなす若い世代の興味を惹きつける投稿を展開した。

(3) 子どもたちに文化を継承

① NHKこども音楽クラブ

次世代を育てる教育プログラムとしてNHKと共催し、2007年から各地の小中学校を訪ねてミニコンサートが続けている。17年目となる今年度は、北海道から九州まで全国10か所で11回実施。楽員による楽器の説明や校歌の演奏などを行い、子どもたちと触れ合いながらオーケストラの魅力を紹介した。またこの様子は地域放送局のニュースや地域番組をはじめ、NHKのホームページでも広く紹介された。

② 「N響といっしょ！音を楽しむ！！」

就学前の幼い子どもたちに音楽を楽しんでもらうことを目的に取り組んでいる活動。4年目となる今年度は10月と2025年3月にそれぞれ2回ずつ実施。地元港区の2つの保育園の園児をN響の演奏所に招き、コロナ禍で参加を控えていた管楽器奏者も登場するなど、楽員たちと交流した。

③ ゲームソフトメーカーとの連携

東北地方の復興支援などに取り組むゲームソフトメーカー(株式会社ポケモン)と連携し、キャラクターショーに室内楽メンバーを派遣した。今年度は福井、宮城、宮崎、岩手を訪ね、子どもたちにおなじみのゲーム音楽を交えた演奏を行った。

(※詳細は3-(3)②「福祉施設、病院、被災地への訪問」を参照)

(4) N響100年に向けた取り組み

創立100年に合わせ2026年1月から多彩な記念事業を展開すべく計画、準備を進めた。また、メモリアルイヤーに先立ち、2025年4月から「プレ記念事業期間」と位置づけ、記念ロゴを使った広報展開やN響100年の支援をいただく個人サポーター募集など、大きな節目の年に向けてファンの方々の機運と期待を高める取り組みをスタートさせるための準備も行った。

3. 社会と放送への貢献

(1) 次世代の未来を育む活動

① NPOと連携した子どもの招待

共働きや一人親世帯を支援するNPO法人、子どもたちが暮らす施設の運営団体などと連携し、子どもたちと関係者を「N響ほっとコンサート」に招待した。クラシック音楽に触れる機会が少ない子どもたちにもその素晴らしさを感じてもらえる機会として継続していく。

② アウトリーチ活動等の室内楽

オーケストラ公演の合間に近隣の学校を訪ねるアウトリーチ活動として、室内楽の演奏や子どもたちとの交流を数多く実施した。また企業で開発中のデジタル技術や最新のイヤホンを用いたリハーサル見学を行ったり、地域の子ども支援イベントに楽員を派遣するなど、学校や地域、企業などと連携しながら様々な形で取り組んだ。

(2) 福祉、被災地を応援する活動

① 聴覚障がい者の鑑賞に向けた取り組み

NHK財団、NHKホールと連携し、耳が不自由な方でも音を聞き取れる特殊な装置「骨伝導ヘッドホン」の将来的な活用に向けた活動を昨年度に引き続き取り組んだ。定期公演のリハーサル公開に障がい者や音響メーカーの関係者を招き、解説の音声をパソコン上の字幕に変換する自動翻訳のシステムや機器の開発に協力した。

② 福祉施設、病院、被災地への訪問

福祉施設や病院などの要望に基づき、入所者や患者、施設の職員に向けた室内楽コンサートを行い、安らぎの時間を過ごしてもらった。

被災地での活動としては、震災の復興支援に取り組むゲームソフトメーカー（株式会社ポケモン）と連携し、被災者に向けた演奏を行った（6/24-25）。また、東北出身のピアニスト・小山実稚恵氏との共演で仙台での被災地支援公演を行ったほか（8/2-4）、金沢市で開催された能登半島復興支援コンサート（2/15）、金沢放送局が主催して輪島市（3/22）、珠洲市（3/23）で行った能登半島復興応援イベントに参加。被災地の状況を見ながら慰問の演奏を行い、被災者に安らぎと元気を届けた。

(3) 放送等への貢献

① N響大河ドラマ&名曲コンサート

2回目となる「大河ドラマ&名曲コンサート」。昨年度に引き続き俳優の高橋英樹さんをゲストに迎え、前半はN響が手掛けてきた数々のテーマ音楽、後半は「川」「河」をモチーフにしたクラシック音楽の名曲を演奏し、幅広い層に楽しんでいただいた。今年度はNHKと共催で「放送100年」企画として開催し、総合テレビでも放送を予定されるなどNHKグループ内の連携を深め、より充実したサービスコンテンツとして展開した。

② 放送への出演、テーマ曲の収録

- ・定期公演は、各回ともテレビのEテレ「クラシック音楽館」で放送。ラジオはCプログラムのみ生放送で（9月以降は収録）、A、Bプログラムは収録して、後日放送された。放送後も「NHKプラス」「NHKオンデマンド」の見逃しサービスや「らじる★らじる」「radiko」の聞き逃しサービスで、期間限定で配信された。
- ・特別公演は、年末の「第九」を生放送（BSプレミアム4K、および8K）、6月の「Music Tomorrow 2024」はFM「現代の音楽」で放送された。
- ・毎年取り組んでいる大河ドラマのテーマ曲を録音。2025年放送の「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺」ではテーマ曲のみならず劇中曲も録音したほか、作曲家からの熱いオファーに応え、放送途中のタイミングでも追加の録音を行うことになった。そのほか「名曲アルバム」「クラシックTV」「NHKのど自慢」などにも多数出演した。
- ・4月の入局式には弦楽四重奏を派遣、さらに2025年3月の放送記念式典ではNHKホールで記念のオーケストラ演奏を行った。
- ・FMでは、N響メンバーが多数出演して楽しいトークを繰り広げる新番組「N響 夜の座談会」が特集番組提案で採択され、2回放送された。下半期の改定に合わせたり、大みそか特番「第九」のPRも兼ねるなど、編成上の戦略にも合致した番組となった。

③ 視聴者リレーション活動への参加

NHKの地域放送局が独自に開催する視聴者活動や渋谷の街を舞台とした「NHK Classic Fes.」に室内楽メンバーを積極的に派遣し、クラシック音楽の裾野を広げる取り組みとするとともに、NHKブランドの向上に寄与した。

(4) N響アカデミーによる人材育成

日本のオーケストラの若手演奏家の育成を目的にスタートしたN響独自の制度。楽員の直接指導や実演訓練などを経て、これまで61人（2025年1月末）が巣立ち、N響を含め内外のオーケストラで活躍している。演奏者は7人（2025年3月末）が在籍し、「指揮研究員」のコースでも、N響と共演する著名な指揮者のアシスタントとして、2人が研鑽を積んでいる。日本の音楽界の人材の育成に引き続き貢献していく。

4. 海外のファンの獲得

(1) アジアを中心にファンを獲得

① 台湾公演の実施

8月に台湾の台北、台中、高尾の3都市で4公演を実施、コロナ禍を経て4年ぶりの海外ツアーとなった。首席指揮者ファビオ・ルイーダとともに招聘され、ソリストに世界で活躍する台湾出身のヴァイオリニスト、ポール・ホアンを迎えた。本番ではソリストによるアンコールを第1コンサートマスター郷古廉と共演。同世代の2人の演奏で会場は感動に包まれた。ツアー中は、日本台湾交流協会の求めに応じ、高雄では日本人学校へのアウトリーチや、現地でも人気の高い宮崎駿のナンバーを多くの人が集う商業施設で披露するなど、草の根友好活動にも取り組んだ。

② 東アジアの訪日旅行者の誘導

訪日旅行者を公演に呼び込むため、台湾からの訪日旅行者の約90%以上が閲覧する現地の中国語繁体字による日本旅行案内サイトに、今年度も引き続き、N響の紹介ページを掲載した。あわせて、旅行者が最もストレスと感じているチケットの購入や受け取りの方法を場面ごとに撮影し、現地語でわかりやすく紹介する動画コンテンツの掲載も継続し、英語版チケット販売ページへの誘導に一定の役割を果たした。また年間誌の「ブローシュア」などでも中国語（繁体字／簡体字）による「チケットの購入の仕方」を引き続き紹介した。

(2) 訪日旅行者、留学生への取り組み

① 訪日旅行者への取り組み

欧米で広く知られ、東京都内にもチケットショップを展開する販売業者と提携し、訪日旅行者を対象とするチケット販売を行った。また、訪日旅行者が多く利用するホテルに対し、コンシェルジュを通じたプロモーションを展開するなど、渋谷や原宿の観光名所に近いNHKホールでの公演への呼び込みにも努めた結果、インバウンドに伴うチケット購入数が着実に伸びた。

② 留学生の招待

日本で学ぶ留学生に生の音楽芸術に触れてもらうための公演招待はコロナ禍で中断していたが、2023年度から本格的に再開。今年度に来場した留学生は延べ900人を超え、N響のみならず日本の音楽文化への印象と親近感を高めてもらうきっかけを提供した。また招待した留学生にSNSを通じて母国語により海外へ広く発信してもらうことで、N響の国際的なプレゼンス向上にもつなげることができた。

(3) 国際発信の強化

① 英語版チケット販売サイト

海外のお客様に向けた英語版のチケット販売サイトを2023年に開設して以来、チ

ケット購入の利便性が向上している。今年度は、ホームページの英語版公演情報のページから英語版販売サイトに向かう導線をわかりやすくするなどの改善を行い、順調な利用者数の増加が見られた。

② 定期刊行物の外国語表記

機関誌「フィルハーモニー」、年間誌「ブローシュア」などに引き続き英語ページを掲載。国内外の多くの方々に届くようホームページなどでも公開した。また海外からの来場者のさらなる増加を目指し、近年導入した中国語（繁体字／簡体字）による「チケットの購入の仕方」に、2025年度からは韓国語も加えて「ブローシュア」やホームページなどで紹介するため、その準備も進めた。

③ 海外メディアの活用

イギリスを本拠とするクラシック音楽サイト「Bachtrack」、香港・台湾向け日本観光情報サイト「樂吃購(ラーチーゴー)！」をはじめ、海外メディアを通じて外国語によるN響公演の周知をさらに進めた。

④ 国際放送

海外向けの国際放送「NHKワールド JAPAN」でN響の演奏を特集した番組、「Masterpiece Performed by NHK Symphony Orchestra」の制作に引き続き協力し、今年度は3番組が放送された。放送された演奏は、インターネットによるライブストリーミングやオンデマンドサービスでも世界に配信され、放送、ネットでの国際発信によってN響のプレゼンスを高めた。

5. 経営の安定化とマネジメントの強化

(1) 経費の節減

円安や物価高による公演経費のさらなる上昇、NHK助成金の減少など、財政運営は一層厳しいものとなった。オーケストラの生命線である演奏力への影響を抑えつつ、事務局を中心に経費の節減に努めた。具体的には、NHKからの出向者の一部を転籍者に置き換えて人件費を削減した他、テレワーク普及のために計画していた全職員への携帯端末の配布を一部延期することでIT投資を抑制、広報ツールの整理や業務委託の仕様見直しを行うなど、きめ細かな支出の切り詰めに努めた。

(2) 増収の努力

5月中旬に2024-25シーズンの価格改定について発表。円安や物価の上昇、国際情勢の変化による招聘費用の高騰などを受けての値上げであることを説明し、9月の新シーズンから公演料金をほぼ一律に改定して収支の改善を図った。N響ならではの豪華さや芸術性の追求、その一方で、広範に親しめる気軽さなどプログラムの持ち味にめりはりをつけてファン層を広げるほか、顧客サービスを向上させることでチケット販

売数は目標よりも大きく上回り、公演収入の増加につながった。また、企業や個人の寄付の拡大では、企業訪問を強化するとともに、支援者に定期公演のリハーサルを指揮研究員などによるイヤホンガイド付きで見学していただく機会を増やすなど当団の活動への理解促進に努めた。その結果、大口の特別支援は昨年度から4団体増えて8団体となった。また賛助会員（一口50万円、個人も含む）は、2025年3月末現在で206社、342口となり、賛助会員から特別支援に移行した大口の企業があったにも関わらず、前年比3社減、8口増と寄付額全体で著しい伸びとなった。このほか定期公演の会員や特別公演への協賛の獲得、団体や企業の要請による契約公演の確保に組織一丸となって取り組み、当初予算で見込んでいた大幅な赤字の解消につながった。

(3) マネジメントの強化

経営の環境が厳しさを増す中、公演ごとの収支を逐次点検、検証し、部内での共有を徹底するなど、管理会計を行いながら適切な財政運営に努めた。昨年9月から本格化させた事務局のパワーシフトでは、業務を部分的に外注化することで新たに生まれたパワーを営業活動や多様なツールを活用した広報、チケット販売の戦略立案機能強化にシフトするとともに、引き続き各部に兼務者を配置し、多様化している業務に機動的に対応する体制を敷いた。また、NHK財団とも連携しながら、テレワーク環境の整備に合わせて情報セキュリティ強化のための訓練や研修、個人情報に関する点検等を行い、職員の対応力と情報リテラシーを高め、リスクマネジメントやコンプライアンスの徹底を図った。

6. 顕彰の実施

(1) 尾高賞

故・尾高尚忠氏の功績をたたえ、邦人作曲家による優れたオーケストラ作品を顕彰するために1952年に設けた作曲賞。権代敦彦氏の《時と永遠を結ぶ絃 ― ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193（愛知室内オーケストラ委嘱作品）》が選ばれた。贈呈式と受賞作品の演奏は、2025年6月、東京オペラシティ・コンサートホールで開催される「Music Tomorrow 2025」で行われる。

(2) 有馬賞

故・有馬大五郎氏（元・当団副理事長）の偉業を記念して1981年に設けた賞で、当団の発展に功績のあった関係者、関係団体、職員が授賞の対象。今年度は、2014年以来、N響の「第九」演奏会を協賛して多くのファンに鑑賞の機会を提供するとともに、13年にわたり賛助会員として当団の事業を支え、日本の音楽文化の普及、発展に多大な貢献をした株式会社かんぼ生命保険に授与した。

7. 法人の概況

1. 設立年月日

1942年4月27日

1926年10月5日 「新交響楽団」(任意団体)設立

1942年4月27日 「財団法人 日本交響楽団」設立

1951年8月1日 「財団法人 NHK交響楽団」に改称

2010年4月1日 「公益財団法人 NHK交響楽団」設立

2. 目的

交響管弦楽により、わが国音楽芸術の向上発展を図り、その社会文化使命を達成することを目的とする。

3. 事業内容

- (1) 放送演奏
- (2) 公開演奏
- (3) 演奏に必要な研究ならびに施設の運営
- (4) 機関雑誌の発行
- (5) その目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁

内閣府

5. 会員状況

(1) 定期会員 8,262人 ※年度平均値

(2) 賛助会員 206社(人) 342口(1口50万円) ※2025年3月31日現在

6. 特別支援・協力企業

(1) 特別支援企業

岩谷産業株式会社、三菱地所株式会社、株式会社みずほ銀行、
公益財団法人渋谷育英会、東日本旅客鉄道株式会社、東日本電信電話株式会社
東京海上ホールディングス株式会社、株式会社ポケモン

(2) 特別協力企業

BMWジャパン、全日本空輸株式会社、ヤマハ株式会社、ぴあ株式会社

7. 事務所所在地

事務所・練習場

東京都港区高輪 2-16-49

8. 処務の概況

1. 理事・監事および評議員に関する事項

(1) 理事・監事

(2025年3月31日現在)

役職	氏名	担当職務・現職
理事長	中野谷 公一	
常務理事	三溝 敬志	演奏制作・企画プロモーション
常務理事	大曾根 聡子	経営管理
理事	相川 直樹	慶應義塾大学 名誉教授
理事	内永 ゆか子	(株)GRI 代表取締役社長
理事	岡田 知之	洗足学園音楽大学 名誉教授
理事	杉山 博孝	三菱地所(株) 特別顧問
理事	銭谷 眞美	(公財)新国立劇場運営財団 理事長
理事	田辺 雅泰	NHK財団 常務理事
理事	團 宏明	(公財)通信文化協会 会長
理事	毛利 衛	日本科学未来館 名誉館長、宇宙飛行士
監事	春原 雄策	NHKグループ経営戦略局 局長
監事	濱村 和則	公認会計士

(2) 評議員

(2025年3月31日現在)

役職	氏名	現職
評議員	稲葉 延雄	NHK 会長
評議員	江頭 敏明	三井住友海上火災保険(株) 名誉顧問
評議員	樺山 紘一	東京大学 名誉教授
評議員	菅原 直	NHK財団 広報・広聴事業本部長
評議員	清野 智	東日本旅客鉄道(株) 顧問
評議員	田中 宏暁	NHK財団 理事長
評議員	檀 ふみ	女優
評議員	坪井 節子	(社福)カリヨン子どもセンター 理事・弁護士
評議員	中嶋 太一	NHK 理事
評議員	前田 昭雄	ウィーン大学 名誉教授
評議員	三浦 惺	日本電信電話(株) 特別顧問
評議員	山名 啓雄	NHK 専務理事
評議員	渡邊 修	石油資源開発(株) 特別顧問

2. 理事・監事および評議員の異動に関する事項

区 分	年 月 日	辞任・退任	新 任
理 事	2024年6月10日	今村 啓一	
理 事	2024年6月10日	笠原 裕之	
評議員	2024年6月10日	熊埜御堂 朋子	
評議員	2024年6月10日	松居 径	
監 事	2024年6月10日	江口 貴之	
理 事	2024年6月10日		大曾根 聡子
理 事	2024年6月10日		田辺 雅泰
評議員	2024年6月10日		中嶋 太一
評議員	2024年6月10日		菅原 直
監 事	2024年6月10日		春原 雄策

3. 職員に関する事項

(2025年3月31日現在)

職 種	人 数	平均年齢
楽 員	100人	46.1歳
事務職員	25人	50.7歳
合計または平均	125人	47.0歳

注) 2025年3月31日退職者は含まず。

4. 会議に関する事項

(1) 理事会の開催状況（書面決議の場合、年月日は決裁日）

区 分	年 月 日	議 題
第 77 回理事会	2024 年 5 月 23 日	1. 業務運営状況報告 2. 2023 年度事業報告及び収支決算 3. 第 44 回評議員会の開催
第 78 回理事会 (書面)	2024 年 6 月 5 日	1. 第 44 回評議員会の開催
第 79 回理事会 (書面)	2024 年 6 月 17 日	1. 代表理事(理事長)の選定 2. 業務執行理事(常務理事)の選定
第 80 回理事会 (書面)	2024 年 7 月 8 日	1. 出向常勤理事の報酬額設定
第 81 回理事会 (書面)	2025 年 2 月 12 日	1. 第 46 回評議員会の開催
第 82 回理事会	2025 年 3 月 21 日	1. 業務運営状況報告 2. 2025 年度事業計画及び収支予算

(2) 評議員会の開催状況（書面決議の場合、年月日は決裁日）

区 分	年 月 日	議 題
第 44 回評議員会	2024 年 6 月 10 日	1. 2023 年度事業報告及び収支決算 2. 評議員・理事・監事の選任
第 45 回評議員会 (書面)	2024 年 7 月 10 日	1. 出向常勤理事の報酬額設定
第 46 回評議員会	2025 年 3 月 21 日	1. 2025 年度事業計画及び収支予算

9. 理事および監事に支払った報酬の額

当事業年度における当財団の理事および監事に対する報酬の内容は以下の通り。

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数 (人)
		定額部分	変動部分	
理 事	49,167	36,924	12,243	3
監 事	2,520	2,520	0	1

※当事業年度末の人員数は理事 11 名、監事 2 名。うち非常勤理事 8 名、非常勤監事 1 名は無報酬であり、上記人員には含まれていない。

(参考資料)

2024年度 公演概要

公演	年間公演回数	年間入場者	内容
定期公演	54回	120,980人	Aプログラム18回 (NHKホール) Bプログラム18回 (サントリーホール) Cプログラム18回 (NHKホール)
特別公演	14回	30,777人	ドラゴンクエスト・コンサート、Music Tomorrow2024、N響「夏」、松山公演、ほととコンサート、ウェルカム・コンサート、名曲コンサート、オーケストラ・キャラバン富士、第九公演5回、大河ドラマコンサート
地方公演	7回	12,581人	NHK音楽祭、大阪、甲府、西宮、大津、高知、高松
放送・録音 演奏	3回	—	「大河ドラマ」テーマ曲など録音 高輪ゲートウェイシティ テーマ音楽録音 放送記念日 記念演奏
契約公演	37回	—	東京春・音楽祭 (東京文化会館)、オーチャード定期 (4月、7月、11月、2024年1月、計4回)、ゴールデン・クラシック (東京文化会館)、静岡、幸田、調布音楽祭、サントリーホール公演 (7月)、大阪フェスティバルホール公演、郡山、N響「夏」大阪、東広島、安城、富山、福山、鳥取、川崎、福島、山形、秋田、足利、高崎、サントリーホール公演 (10月)、かつしか、埼玉、浦安、N響第九チャリティーコンサート (NHKホール)、いわき、市川、和歌山、直方、上田、都民芸術フェスティバル (すみだトリフォニーホール)、東京春・音楽祭 (東京文化会館2回)
海外公演	4回	—	台北 (2回)、台中、高雄

2024年度 演奏活動実績

- ◆定期公演 (2024年4月～2024年6月：A, C：NHKホール、B：サントリーホール)
 (2024年9月～2025年2月：A, C：NHKホール、B：サントリーホール)

4月	A	第2007回 4/13, 14 指揮：マレク・ヤノフスキ シューベルト：交響曲第4番 ハ短調 D. 417 ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 作品68
	B	第2009回 4/24, 25 指揮：クリストフ・エッシェンバッハ Vc：キアン・ソルターニ シューマン：「ゲノヴェーヴァ」序曲 作品81 シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 作品129 シューマン：交響曲第4番 イ短調 作品63
	C	第2008回 4/19, 20 指揮：クリストフ・エッシェンバッハ ブルックナー：交響曲第7番 ホ長調
5月	A	第2010回 5/11, 12 指揮：ファビオ・ルイージ パンフィリ：戦いを生きる（日本初演） レスピーギ：交響詩「ローマの噴水」 レスピーギ：交響詩「ローマの松」 レスピーギ：交響詩「ローマの祭り」
	B	第2012回 5/22, 23 指揮：ファビオ・ルイージ Pf ルドルフ・ブフビンダー ブラームス：ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15 ニルセン：交響曲第2番 ロ短調 作品16「4つの気質」
	C	第2011回 5/17, 18 指揮：ファビオ・ルイージ メンデルスゾーン：劇音楽「夏の夜の夢」作品21から 序曲、夜想曲、スケルツォ、結婚行進曲 メンデルスゾーン：交響曲第5番 ニ長調 作品107「宗教改革」

6月	A	<p>第 2013 回 6/8,9 指揮：原田慶太楼 Pf：反田恭平 スクリャービン：夢想 作品 24 スクリャービン：ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品 20 スクリャービン：交響曲第 2 番 ハ短調 作品 29</p>
	B	<p>第 2015 回 6/19,20 指揮：鈴木優人 Vn：イザベル・ファウスト ウェーベルン：パッサカリア 作品 1 シェーンベルク：ヴァイオリン協奏曲 バッハ（ウェーベルン編）：6 声のリチェルカーレ シューベルト：交響曲第 5 番 変ロ長調 D. 485</p>
	C	<p>第 2014 回 6/14,15 指揮：沖澤のどか Pf：デニス・コジュヒン 女声合唱：東京混声合唱団 イベール：寄港地 ラヴェル：左手のためのピアノ協奏曲 ドビュッシー：夜想曲</p>
9月	A	<p>第 2016 回 9/14,15 指揮：ファビオ・ルイージ ブルックナー：交響曲第 8 番 ハ短調 [1887 年第 1 稿]</p>
	B	<p>第 2017 回 9/19,20 指揮：ファビオ・ルイージ Pf：アレッサンドロ・タヴェルナ シューベルト：イタリア風序曲第 2 番 ハ長調 D. 591 シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 作品 54 ベートーヴェン：交響曲第 7 番 イ長調 作品 92</p>
	C	<p>第 2018 回 9/27,28 指揮：尾高忠明 Vc：辻本玲 チャイコフスキー：ロココの主題による変奏曲 作品 33 [フィッツェンハーゲン版] チャイコフスキー：バレエ音楽「白鳥の湖」作品 20 抜粋</p>
10月	A	<p>第 2020 回 10/19,20 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット オネゲル：交響曲第 3 番「典礼風」 ブラームス：交響曲第 4 番 ホ短調 作品 98</p>

		<p>第 2019 回 10/10, 11 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット C1：伊藤圭 シベリウス：「4つの伝説」作品 22 から「トゥオネラの白鳥」 ニルセン：クラリネット協奏曲 作品 57 ベルワルド：交響曲第 4 番 変ホ長調「ナイーヴ」</p>
		<p>第 2021 回 10/25, 26 指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット シューベルト：交響曲第 7 番 ロ短調 D. 759「未完成」 シューベルト：交響曲第 8 番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」</p>
11 月	A	<p>第 2022 回 11/9, 10 指揮：山田和樹 Pf：フランチェスコ・ピエモンテージ ルーセル：バレエ「バッカスとアリアース」作品 43 組曲第 1 番 バルトーク：ピアノ協奏曲第 3 番 ラヴェル：優雅で感傷的なワルツ ドビュッシー：「映像」から「イベリア」</p>
	B	<p>第 2024 回 11/21, 22 指揮：ディマ・スロボデニューク Vn：ニキータ・ボリソグレブスキ チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 35 プロコフィエフ：バレエ音楽「石の花の物語」から プロローグ「銅山の女王」～結婚組曲 作品 126 ストラヴィンスキー：3 楽章の交響曲</p>
	C	<p>第 2023 回 11/15, 16 指揮：アンドレス・オロスコ・エストラーダ Trp：ラインホルト・フリードリヒ ワーグナー：歌劇「タンホイザー」序曲 ヴァインベルク：トランペット協奏曲 変ロ長調 作品 94 ショスタコーヴィチ：交響曲第 5 番 ニ短調 作品 47「革命」</p>
12 月	A	<p>第 2025 回 11/30, 12/1 指揮：ファビオ・ルイーダ S：クリスティアーネ・カルク ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」—前奏曲と愛の死 R. シュトラウス：「ばらの花環」作品 36-1、「懐かしい面影」作品 48-1、 「森の喜び」作品 49-1、「解き放たれて」作品 39-4、「あすの朝」作品 27-4 シェーンベルク：交響詩「ペレアスとメリザンド」作品 5</p>

	B	<p>第 2026 回 12/5, 6</p> <p>指揮：ファビオ・ルイージ</p> <p>Pf：ネルソン・ゲルナー</p> <p>スメタナ：歌劇「売られた花嫁」序曲</p> <p>ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 3 番 ニ短調 作品 30</p> <p>ムソルグスキー（ラヴェル編）：組曲「展覧会の絵」</p>
	C	<p>第 2027 回 12/13, 14</p> <p>指揮：ファビオ・ルイージ</p> <p>T：クリストファー・ヴェントリス</p> <p>合唱：東京オペラ・シンガーズ</p> <p>リスト：交響詩「タッソー」S. 96</p> <p>リスト：ファウスト交響曲 S. 108</p>
1 月	A	<p>第 2028 回 1/18, 19</p> <p>指揮：トゥガン・ソヒエフ</p> <p>ショスタコーヴィチ：交響曲第 7 番ハ長調 作品 60「レニングラード」</p>
	B	<p>第 2030 回 1/30, 31</p> <p>指揮：トゥガン・ソヒエフ</p> <p>Vn：郷古廉</p> <p>ムソルグスキー：歌劇「ソロチンスクの市」から 序曲とゴパック</p> <p>バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第 2 番 BB117</p> <p>ドヴォルザーク：交響曲第 8 番 ト長調 作品 88</p>
	C	<p>第 2029 回 1/24, 25</p> <p>指揮：トゥガン・ソヒエフ</p> <p>ストラヴィンスキー：組曲「プルチネッタ」</p> <p>ブラームス：交響曲第 1 番 ハ短調 作品 68</p>
2 月	A	<p>第 2031 回 2/8, 9</p> <p>指揮：ペトル・ポペルカ</p> <p>Hr：ラデク・バボラーク</p> <p>ツェムリンスキー：シンフォニエッタ</p> <p>R. シェトラウス：ホルン協奏曲第 1 番 変ホ長調 作品 11</p> <p>ドヴォルザーク：交響詩「野鳩」作品 110</p> <p>ヤナーチェク：シンフォニエッタ</p>

	<p>第 2032 回 2/13, 14</p> <p>指揮：ペトル・ポペルカ</p> <p>S：エマ・ニコロフスカ</p> <p>モーツァルト：アリア「私は行く、だがどこへ」 K. 583</p> <p>B アリア「大いなる魂と高貴な心は」 K. 578</p> <p>交響曲第 25 番ト短調 K. 183</p> <p>レチタティーヴォとアリア「私のうるわしい恋人よ、さようなら —とどまって下さい、ああ いとしい人よ」 K. 528</p> <p>シューマン：交響曲第 1 番 変ロ長調 作品 38 「春」</p>
	<p>第 2033 回 2/21, 22</p> <p>指揮：下野竜也</p> <p>Vn：三浦文彰</p> <p>C スッペ：喜歌劇「軽騎兵」序曲</p> <p>サン・サーンス：ヴァイオリン協奏曲第 3 番 ロ短調 作品 61</p> <p>スッペ：「詩人と農夫」序曲</p> <p>オッフェンバック（ロザンタール編）：バレエ組曲「パリの喜び」</p>

◆特別公演

5月	<p>N響 ドラゴンクエスト・コンサート <5/6> 東京芸術劇場</p> <p>指揮：下野竜也</p> <p>すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエスト V 天空の花嫁」—「序曲のマーチ」</p> <p>エルガー／組曲「子どもの魔法のつえ」第 1 番 —「序曲」「メヌエット」「妖精と巨人」</p> <p>すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエスト IV 導かれし者たち」</p> <p>—「海図を広げて」「栄光への戦い」</p> <p>ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」（1919 年版）</p> <p>—「カッチェイ王の魔の踊り」「こもり歌」「終曲」</p> <p>すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエスト III そして伝説へ」（1987 年 N 響録音版・全曲）</p>
	<p>Music Tomorrow 2024 <5/28> 東京オペラシティ・コンサートホール</p> <p>指揮：ペーター・ルンデル</p> <p>Hp：グザビエ・ドゥ・メストレ</p> <p>Pf：フランソワ・フレデリック・ギイ</p> <p>エトヴェシュ：マレーヴィチを読む（日本初演）</p> <p>湯浅譲二：哀歌（第 71 回尾高賞受賞作品）</p> <p>エトヴェシュ：ハープ協奏曲（共同委嘱、日本初演）</p> <p>ミュライユ：「嵐の目」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲（共同委嘱、日本初演）</p>

7月	<p>N響「夏」2024 <7/12> NHKホール 指揮：グスターボ・ヒメノ Vn：ノア・ベンディックス・バルグリー シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品 47 ベートーヴェン：交響曲第6番 ヘ長調 作品 68「田園」</p>
	<p>松山公演 <7/14> 愛媛県県民文化会館 N響「夏」<7/12>と同プログラム</p>
	<p>N響ほっとコンサート <7/27> NHKホール 指揮：クリスティーナ・ポスカ Pf：イ・ヒョク ナビゲーター：厚切りジェイソン ジョン・ウィリアムズ：オリンピック・スピリット エッレル：故郷の調べ ブリテン：青少年のための管弦楽入門 グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品 16 から 第1楽章（鳥取は全曲） J. シュトラウス1世：ラデツキー行進曲 マスカーニ：歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲 ビゼー：「アルルの女」から「ファランドール」 外山雄三：管弦楽のためのラプソディ～八木節</p>
9月	<p>N響ウェルカム・コンサート <9/5> NHKホール 指揮：下野竜也 Vc 辻本玲 司会：大林奈津子 スッペ：喜歌劇「軽騎兵」序曲から ドビュッシー：「イベリア」から「祭りの日の朝」 シューマン：交響曲第1番「春」から第2楽章 マーラー：交響曲第1番「巨人」第2楽章から チャイコフスキー：「ロココの主題による変奏曲」から第6、第7変奏 プロコフィエフ：バレエ音楽「石の花の物語」結婚組曲から「結婚の歌」 ブラームス：交響曲第4番から第3楽章 ムソルグスキー（ラヴェル編）：組曲「展覧会の絵」から「バーバ・ヤガーの小屋」「キエフの大門」</p>
	<p>N響名曲コンサート <9/9> サントリーホール 指揮：パスカル・ロフェ、Pf：ジョナタン・フルネル ブリテン：歌劇「ピーター・グライムズ」から「4つの海の間奏曲」 ラヴェル：左手のためのピアノ協奏曲 ニ長調 フォーレ：「ペレアスとメリザンド」組曲 作品 80 ドビュッシー：交響詩「海」</p>
10月	<p>オーケストラ・キャラバン <10/14> 富士市文化会館ロゼシアター 指揮：ゲルゲイ・マダラシュ、Pf：高木竜馬 チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品 23 チャイコフスキー：交響曲第4番 ヘ短調 作品 36</p>

12月	<p>第九公演 <12/18, 19, 21, 22> NHKホール、<12/23> サントリーホール 指揮：ファビオ・ルイーヂ S：ヘンリエッテ・ボンデ・ハンセン、A：藤村実穂子 T：スチュアート・スケルトン、Br：トマス・トマソン、合唱：新国立劇場合唱団 ベートーヴェン：交響曲第9番 ニ短調 作品125 「合唱つき」</p>
3月	<p>N響大河ドラマ&名曲コンサート <3/7> 東京オペラシティ・コンサートホール 指揮：広上淳一 Vn：三浦文彰 特別ゲスト：高橋英樹 司会：田添菜穂子 「青天を衝け」「軍師官兵衛」「麒麟がくる」「翔ぶがごとく」「篤姫」「元禄太平記」 「草燃える」「徳川慶喜」「真田丸」「べらぼう」 バッハ：ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 BWV1041 ヘンデル（ハーティ編）：「水上の音楽」から第1、3、4、6曲 J. シュトラウス2世：美しく青きドナウ 作品314 グローフェ：組曲「ミシシッピ」から「マルディ・グラ」</p>

◆地方公演

10月	<p>NHK音楽祭 <10/30> NHKホール 指揮：シャルル・デュトワ Pf：ニコライ・ルガンスキー ラヴェル：組曲「マ・メール・ロワ」 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」</p>
11月	<p>大阪公演 <11/24> NHK大阪ホール 11月B定期と同プログラム</p>
1月	<p>甲府公演 <1/5> YCC 県民文化ホール（山梨県立県民文化ホール） 指揮：梅田俊明 Pf：亀井聖矢 ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品83 ベートーヴェン：交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」</p>
	<p>西宮公演 <1/12> 兵庫県立芸術文化センター 大津公演 <1/13> 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール オーチャード定期<1/11>と同プログラム</p>
3月	<p>高知公演 <3/1> 高知県立県民文化ホール 高松公演 <3/2> レグザムホール（香川県県民ホール） 市川公演<2/26>と同プログラム</p>

◆放送・録音演奏

10月	録音 <10/1> 「大河ドラマ」テーマ曲など 指揮：下野竜也
1月	録音 <1/7> 高輪ゲートウェイシティ テーマ音楽 指揮：下野竜也
3月	放送記念日 <3/11> 記念演奏 指揮：大友直人 スメタナ：交響詩「わが祖国」から「モルダウ」

◆契約公演

4月	東京・春・音楽祭 <4/7> 東京文化会館 指揮：マレク・ヤノフスキ ワーグナー：楽劇「ラインの黄金」、楽劇「ワルキューレ」 楽劇「ジークフリート」、楽劇「神々のたそがれ」から
	オーチャード定期 <4/29> オーチャードホール 指揮：クリストフ・エッシェンバッハ Vn：岡本誠司 シューマン：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 ブラームス：交響曲第2番 ニ長調 作品73
5月	ゴールデン・クラシック <5/3> 東京文化会館 指揮：坂入健司郎 Vn：木嶋真優 ハチャトゥリヤン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 ショスタコーヴィチ：交響曲第5番 ニ短調 作品47
6月	静岡公演 <6/1> グランシップ（静岡） 指揮：広上淳一 Vc：上野通明 ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 リムスキー・コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」 作品35
	幸田町公演 <6/2> 幸田町民会館 静岡公演<6/1>と同プログラム
	調布音楽祭 <6/23> 調布市グリーンホール 6月B定期と同プログラム

	<p>サントリーホール公演 <6/29> サントリーホール 指揮：井上道義 Vn：服部百音 ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調 作品77 ロッシーニ：歌劇「ブルスキーノ氏」序曲 ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲第2番 嬰ハ短調 作品129</p>
	<p>大阪フェスティバルホール公演 <6/30> 大阪フェスティバルホール サントリーホール公演<6/29>と同プログラム</p>
7月	<p>オーチャード定期 <7/6> 横浜みなとみらいホール 指揮：秋山和慶 Pf：アレクサンドル・ガジェヴ ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 作品37 ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98</p>
	<p>郡山公演 <7/7> けんしん郡山文化センター オーチャード定期<7/6>と同プログラム</p>
	<p>N響「夏」大阪2023 <7/13> ザ・シンフォニーホール N響「夏」<7/12>と同プログラム</p>
	<p>東広島公演 <7/16> 東広島芸術文化ホールくらら N響「夏」<7/12>と同プログラム</p>
	<p>アイシン・エイ・ダブリュ公演 <7/20> アイシン・エイ・ダブリュ・ハーモニーホール 指揮：クリスティーナ・ポスカ Vn：荒井里桜 モーツァルト：歌劇「イドメネオ」バレエ音楽 K.367 から 第1曲「シャコンヌ」、第2曲「パ・スール」 メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 モーツァルト：交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」</p>
	<p>富山公演 <7/21> 富山県民会館 アイシン・エイ・ダブリュ公演<7/20>と同プログラム</p>
	<p>福山公演 <7/29> ふくやまリーデンローズ N響ほっとコンサート<7/27>に準じるプログラム</p>
	<p>鳥取公演 <7/30> とりぎん文化会館 N響ほっとコンサート<7/27>に準じるプログラム</p>

8月	<p>フェスタサマーミュージザ <8/4> ミューザ川崎シンフォニーホール 指揮：沼尻竜典 Vn：戸田弥生 ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 77 ブラームス（シェーンベルク編）：ピアノ四重奏曲第1番 ト短調 作品 25</p>
	<p>福島公演 <8/30> ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂） 指揮：下野竜也 Pf：横山幸雄 ショパン：ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品 11 ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 作品 95「新世界から」</p>
	<p>山形公演 <8/31> やまぎん県民ホール 福島公演<8/30>と同プログラム</p>
9月	<p>秋田公演 <9/1> あきた芸術劇場ミルハス 福島公演<8/30>と同プログラム</p>
	<p>足利公演 <9/22> あしかがフラワーパークプラザ 9月B定期と同プログラム</p>
	<p>高崎公演 <9/23> 高崎芸術劇場 9月B定期と同プログラム</p>
10月	<p>サントリーホール公演 <10/5> サントリーホール 指揮：広上淳一 Pf：小山実稚恵 モーツァルト：ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K. 595 ブラームス：ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品 15</p>
	<p>N響ベストクラシックス <10/6> かつしかシンフォニーヒルズ 指揮：広上淳一 Pf：小山実稚恵 モーツァルト：交響曲第32番 ト長調 K. 318 モーツァルト：ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K. 595 ハイドン：交響曲第101番 ニ長調「時計」</p>
11月	<p>オーチャード定期 <11/3> 横浜みなとみらいホール 指揮：キンボー・イシイ Pf：福間洸太郎 ウェーバー（ベルリオーズ編）：舞踏への勧誘 作品 65 ショパン：ポーランドの歌による幻想曲 作品 13 リスト：死の舞踏 S. 126 ビゼー：「カルメン」組曲（キンボー・イシイ版）</p>

	<p>埼玉公演 <11/4>埼玉会館 オーチャード定期<11/3>と同プログラム</p>
12月	<p>浦安公演 <12/8> 浦安市文化会館 12月B定期と同プログラム</p>
	<p>NHK厚生文化事業団 第九公演 <12/19 または 24> NHKホール 12月第九公演と同プログラム</p>
1月	<p>オーチャード定期 <1/11> みなとみらいホール 指揮：サッシャ・ゲッツェル S: ヘラ・イエサン・パク J. シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」から 序曲～「侯爵様、あなたのようなお方は」 J. シュトラウス2世：南国のバラ 作品 388 J. シュトラウス2世：ペルシャ行進曲 作品 289 J. シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」から「田舎娘を演じる時は」 J. シュトラウス2世：狂乱のポルカ 作品 260 コルンゴルト：シュトラウシアーナ ヨーゼフ・シュトラウス：ワルツ「うわごと」作品 212 ヨーゼフ・シュトラウス：ポルカ・マズルカ「とんぼ」作品 204 J. シュトラウス2世：喜歌劇「ジプシー男爵」序曲 J. シュトラウス2世：ウィーン気質</p>
2月	<p>いわき公演 <2/2> いわきアリオス 1月B定期と同プログラム</p>
	<p>市川公演 <2/26> 市川市文化会館 指揮：マルクス・ポシュナー Pf：小林愛実 ベートーヴェン：「コリオラン」序曲 作品 62 モーツァルト：ピアノ協奏曲第9番 変ホ長調 K. 271「ジュノム」 ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品 92</p>
	<p>和歌山公演 <2/27>和歌山県民文化会館 市川公演<2/26>と同プログラム</p>
3月	<p>直方公演 <3/3> ユメニティのおがた 市川公演<2/26>と同プログラム</p>
	<p>上田公演 <3/8> 上田市交流文化芸術センター 大河ドラマコンサート<3/7>東京オペラシティと同プログラム</p>

	都民芸術フェスティバル <3/11> すみだトリフォニーホール 指揮：大友直人 Pf：金子三勇士 リスト：ピアノ協奏曲第2番 イ長調 S. 125 (ほか)
	東京・春・音楽祭 <3/27, 30> 東京文化会館 指揮：マレク・ヤノフスキ ワーグナー：楽劇「パルシファル」(演奏会形式)

◆海外公演

8月	台北・国家音楽庁 <8/22> 台中・国家歌劇院 <8/23> 高雄・衛武宮国家芸術文化中心 <8/24> 台北・国家音楽庁 <8/25> 指揮：ファビオ・ルイージ Vn：ポール・ホアン ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲 ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26 チャイコフスキー：交響曲第5番 ホ短調 作品64
----	---